

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
59	川崎市立久本小学校	松澤 ゆかり

学校教育目標	今年度の重点目標
自分をつくる子 かかわりあう子 住む町を大切にす子	・児童指導・支援の充実を図る【褒めて、寄り添う児童支援】 ・確かな学力の育成をする【あたたかな聴き方・やさしい話し方】 ・豊かな社会性と心の育成をする【自己肯定感・自己有用感を高める】 ・良好な教育環境と久本の地域で育成する【情報発信の強化】

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○児童指導・支援の充実 ・教育活動の課題の改善に向けて資質や能力の向上に努める教職員の姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生＊共育プログラム（SOSの出し方・受け止め方）を実施する。 ・子供面談を実施する。（担任と児童の信頼関係作り） ・いじめ未然防止、早期発見の手立て①心のアンケートを年3回行う。②代表委員会を中心に「いじめ防止標語」の取り組みをする。③高学年中心に情報モラル教育を実施し外部講師と連携する。 ・久本っ子の約束の定着を図る。（夏休み・冬休み・春休みの約束含む） ・人権教育を推進し、「多様性・命の授業」等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導については、みんなが安心して過ごすことができるように、「久本っ子の約束」があり、その理由を子供たちが意識したり納得したりすることができるようにその都度必要に応じて伝達することができた。相手意識をもつことの大切さと約束を結びつけて提示を行った。 ・トラブルやいじめについては、管理職が中心になり迅速な初期対応を行うように努めた。傷ついた児童の気持ちに寄り添ったサポートをした。また加害側の児童については、相手の気持ちについて考えることができるように丁寧で粘り強い指導を積み重ねるようにした。 ・自分とは違う考えをする友達がいることを尊重したり認め合ったりすることができるように、多様性についてより一層理解を深めていけるようにしていきたい。 ・困ったことがあったときには、SOSを出して良いことを伝えるために、共生＊共育プログラムや子供面談を丁寧に積み重ねていくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の児童の実態に合わせるため、「久本っ子の約束」「久本スタンダード」は、毎年見直しを行う。児童がより安心して過ごしやすい約束にしておく。ルールを守らない等気になる行動については、全職員で情報共有をして約束の再確認を行う。また児童支援部会で児童の実態に合わせた対応方法等、話し合う機会を増やしていく。 ・トラブル、いじめについては、迅速な初期対応で情報を共有し、各学年等複数対応をするようにしていく。各クラスで意見をまとめた「いじめ防止標語」は来年度も継続していく。 ・子供面談については、来年度も継続して行う。児童がSOSが出しやすいように、日常での児童とのやりとりをより大切にしていく。また共生＊共育プログラムの中でも必ず取り組むようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の育成 ・学ぶ楽しさをもち、意欲的に学習に向かう姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業・楽しい授業・関わり合う授業を展開し、実践する。 ・校内研究を軸に授業力向上に向けた取組を行う。 ・あたたかな聴き方・優しい話し方の取組 ・GIGAスクール構想を推進する。 ・キャリア在り方生き方教育の推進をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう！なるほど！楽しいね！」を研究テーマとし、児童同士の学び合いの中で高め合う姿を目ざしてきた。自分一人ではなく、グループ活動等、友達同士がかかわり合いながら学習を進めることができる場面を多く展開できた。これからは児童が課題に対してより主体的に学ぶように授業改善を目指していきたい。 ・話し合いの場では、話し手を見たり、反応を返したり、相手意識をもって取り組む児童が増えた。児童がより積極的に発言するためにも、話し手が安心して話ができるように、聞き手による環境作りを目指していきたい。 ・GIGA端末を活用し、学で教材の開発や授業展開を工夫していることから、児童の学習意欲の高まりが感じられた。またGIGA端末の活用や紙媒体の活用など、取捨選択することで児童の学びにあった学習形態をつくることができた。 ・キャリア在り方生き方教育を進め、ゲストティーチャーと共に、児童がやってみたいことの実現をめざして、多くの体験活動に挑戦する姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より主体的に児童が学習できるように、個別最適な学びまたは協働的な学びに向けての振り返りを行い、授業改善に努めていく。 ・児童が話したくなるような雰囲気をつくるために、あたたかな聴き方をしているよい姿を価値づけ、手立てを共有していく。 ・GIGA端末は積極的に活用できている。みんなの考えを知ることができて終わらず、交流の手立てとして、そこからさらに自分の考えを表現することができるように授業展開や教材の開発を行っている。 ・キャリア在り方生き方教育を進め、ゲストティーチャーと共に、児童がやってみたいことの実現をめざして、より体験活動を充実させることできるように、カリキュラムマネジメントを行い、計画を見直すようにしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな社会性と心の育成 自分のよさや、他者のよさを認め合う姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心感を得られる環境を整え、一体感を育む活動を通して、一人一人の自己有用感を高める。 ・各行事で自分らのめあてを設定する時間や、それに対してふりかえる時間を十分に確保する。 ・異学年交流の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会では、全校開催に形を変えたことで一体感を育んできた。高学年児童は、係や前日準備など、一人一人に役割があったことで達成感を感じ、自己有用感を高めることができた。また、応援団や他学年の競技、表現を観られたことで上級生に憧れをもった下級生も多く、異学年交流の充実にもつながった。全校開催のメリットを多く感じることができた。 ・各クラス、月目標についてめあてを決めて実践し、ふり返ることができていた。代表委員会がとりまとめた「久本っ子だより」で、他の学年やクラスの取り組みも知ることができた。 ・感染症ガイドラインの変更に伴い、久本タイムでも交流の機会を増やすことができた。教員の視野が他学年にも広がり、チーム学校として児童を見守ることができた。一方で、年度当初の計画から日程等の変更があり、計画通りに実施できなかったという課題もあった。計画の変更により、児童も見直しをもって活動することが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で集まる機会を増やすことは特別活動のねらいにせまるために有効な手立てだと感じた。3月の6年生ありがとう集会も全校で実施し、児童の思いからスタートすることや過程を認めることを大切に自己有用感を高めることにつなげていきたい。 ・めあての設定とふりかえりのサイクルが行事ごと単発にならないよう、学校目標や学年目標から自分らのめあてを設定できるように声をかけていく。 ・久本タイムの計画は、年度途中に変更がないように他行事との関連も見据えて、細やかに計画していく。異学年との交流では、児童が来年度以降の見直しをもてるような場面を意識的に設けていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な教育環境と久本の地域で育成 地域・学校で安心安全に過ごしている姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と自分を見つめる事を大切にした学習づくりをする。 ・施設設備の点検強化と安全確保を図る。 ・PTAや地域と連携した児童を温かく見守る環境づくりを行う。 ・児童が安全に防災・防犯についての指導や訓練等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お囃子や伝統音楽の等の演奏等、音楽を通じて地域の多くの方々とかわりながら意欲的に学習を進めていく姿が見られた。 ・学習環境に不備があったときは、教職員、校務員・事務職員と連携し、修繕を行うようにして、迅速な対応を行い、日頃から教職員が安全な教育環境の整備を意識できていた。 ・不審者対応研修（警察官と共に）を実施した。さらに不審者対応訓練の方法を見直し、全校で実施した。洪水対策訓練の見直しと実施を行った。 ・コロナや天候の影響で、数年、校庭での引き取り訓練が出来ていない。 ・高学年の情報モラル教育の授業では、警察と連携し、SNS教室を授業公開し、児童も保護者も安全・防犯について意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域のお祭りや琴の演奏、学芸大会に参加できるようにしていく。 ・老朽化による校舎の修繕は、校務員や事務と連携し、教育委員会に申請して整備できるようにしていく。 ・警察と連携し、歩行・自転車等の交通安全、不審者対応訓練、情報モラル教育を引き続き実施していく。 ・もし春に計画した日程が雨天の場合、教室での引き取り訓練になるため、次年度は秋にもできるように計画し、校庭での実施ができるようにしたい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○開かれた学校づくりの取組 地域に学び、地域に発信する学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや地域と連携した児童を温かく見守る環境づくりを行う。 ・防災教育を推進していく。 ・配信メールを活用した、事件事故に巻き込まれないための情報伝達の体制づくりを行う。 ・川崎市制100周年「ふるさと川崎」に向けた取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の内容を毎日ホームページに掲載し、校内での活動を保護者へ伝えるようにした。 ・4年ぶりに「避難所開設訓練」を高津中学校、高津高校と連携し、区役所や町内会の方々と行い、緊急時に飲み水の確保やトイレの開設など緊急時対応の初期活動を進めることができた。 ・登下校時の見守り活動を長期休業の前後にPTAと協力して行い、児童の交通安全指導を行うことができた。 ・市制100周年と学校創立70周年の記念事業をリンクさせ、地域の歴史や行事を学ぶ学習を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の様子をホームページで周知することを継続していく。 ・高津中学校、高津高校と3校の連携を図り、避難所開設訓練を実際の緊急時にスムーズに使用できるように、教職員にやり方等をひろめて、災害時に機能できるようにしていく。 ・登下校時と長期休業前後の児童見守りを、PTAの校外委員（ボランティア）の方々と協力し、児童の安全管理を継続していく。 ・創立記念事業、市政周年事業をリンクし、地域の歴史や行事が児童に身近に感じられる取り組みを行うようにしていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>授業参観の際は、児童が一生懸命な姿、教員の指導方法の工夫や改善がされている様子が見られ、向上していることがわかった。特に、廊下等のきれいな環境のなかで学習が進められ、児童の頑張っている姿から学校全体が落ち着いていると感じられた。いじめをテーマにした俳句が校内の児童の目につくところに掲示されているところがよかった。学校教育推進会議の際に活動を報告する5・6年児童会運営委員の発表から、明るくいいきと活動していることがよく伝わってきた。コロナ後の児童の体力の低下が気になる、学校生活のなかで重要なことだと思われる。</p>	<p>4つの重点目標に向かって、教職員が一つのチームとなって学校運営を行ってきた。そのことにより、授業では「あたたかな聴き方・やさしい話し方」の取組から、児童が自分の考えを友達に伝え、かわり、学び合っている姿が多く見られるようになってきた。GIGAスクール構想・推進協力校として端末の活用も進み、学習方法を自分で選択して行うことができるようになってきている。さらに教職員の授業力の向上を目指していきたい。また、次年度もさらに児童の交流の場が増えるよう教育活動を工夫していきたい。「ありがとう」の挨拶の花をたくさん咲かせたり、行事に一生懸命に取り組んだりして自己肯定感や自己有用感を高められるようにしていきたい。</p> <p>次年度は、コミュニティスクールとして学校と地域の連携をさらに図っていききたい。</p>